

## 研究助成実施報告書

助成実施年度	2022 年度
研究課題（タイトル）	旧仏領インドシナの都市計画における屋根付き市場に関する研究
研究者名※	山名 善之
所属組織※	東京理科大学 工学部建築学科 教授 (東京理科大学 創域工学部建築学科 教授)
研究種別	研究助成
研究分野	都市建築史、都市と文化
助成金額	150 万円
発表論文等	

※研究者名、所属組織は申請当時の名称となります。

( ) は、報告書提出時所属先。

# 大林財団2022年度研究助成実施報告書

所属機関名 東京理科大学  
申請者氏名 山名善之

研究課題	旧仏領インドシナの都市計画における屋根付き市場に関する研究
<p>(概要) ※最大10行まで</p> <p>本研究は、ベトナム、カンボジア、ラオスにおける旧仏領インドシナの屋根付き市場と都市計画の関係を探るものであった。資料調査は、ベトナム社会科学図書館、カンボジア国立公文書館、ラオス国立図書館で行われた。ベトナムでは、75点の写真アーカイブズが確認され、カンボジアでは、バタンバンとカンポットの都市拡張計画図が見つかった。ラオスでは目立った資料は確認できなかったが、仏領期の雑誌等資料の存在が確認された。現地調査では、各国の主要市場を訪れ、市場の現況と都市内での配置を確認した。特にカンボジアのバタンバンとカンポットの市場については都市拡張計画の資料が確認され、都市の拡張計画と市場の建て替えが同時期に行われたことが明らかになった。今後の課題として、他の主要都市の都市拡張計画との比較研究を通じて、インドシナ全体の都市拡張と市場の配置計画を詳細に解明することによって、屋根付き市場の都市における重要性を見出していくことが重要である。</p>	

1. 研究の目的	(注) 必要なページ数をご使用ください。
<p>文化遺産として建造物を評価する際、それらの歴史的価値を多様な側面から学術的に証明することが必須である。近年においては植民地時代の文化遺産評価などが活発になりつつあるが、それらは様式研究、建築家研究としての価値評価が先行しているのが実状である。建物単体についての様式的、形態的な分析に留まらず、植民地における都市計画のなかでいかに建築物が位置づけられているかに言及し、それらを文化遺産の評価に反映させることが重要である。</p> <p>本研究では、旧仏領インドシナにおいて都市計画と一体となって計画された市民建築のモデルとしての屋根付き市場に着目し、市場が都市の中で重要な場所に配置されており、都市計画と一体となって計画されていることから、仏領インドシナの主要都市について、都市計画のなかでの屋根付き市場の位置付けを把握し、パリをはじめとするメトロポールでの今日的な市場の活用状況と対照させることによって、旧仏領インドシナ国であるベトナム・ラオス・カンボジアにおける屋根付き市場が今後保存・活用されていくための指針を見出すことを目的とする。</p>	

2. 研究の経過	(注) 必要なページ数をご使用ください。
<p>研究は主にベトナム、カンボジア、ラオスの旧仏領インドシナ国現地のアーカイブズ調査および現地調査によって行われた。下記に各アーカイブズおよび資料館において挙げられた本研究に関わる資料調査の経過、現地調査の経過を示す。</p>	

### 【資料調査の経過】

- ・ ベトナム社会科学図書館 (Viện Hàn lâm Khoa học xã hội Việt Nam, 1B Liễu Giai, Ba Đình, Hà Nội)

フランス極東学院による資料と思われる写真アーカイブズの存在が確認された。フランス植民地期当時の写真資料が充実しており、「marché」をキーワードとして、屋根付き市場の建物を映した写真が75点ほど確認された。ラオスの市場が5点、カンボジアの市場が6点、中国の市場が2点あり、残る63点はベトナムに建てられた市場であった。



図1. ハノイ社会科学図書館資料閲覧室

- ・ カンボジア国立公文書館 (National Archives of Cambodia, Street 61, Oknha Hing Pen, Near Wat Phnom, Phnom Penh, Cambodia)

本研究テーマに関わる資料として、カンボジアの主要都市であるバタンバンとカンポットの都市の拡張に関する資料が確認された。この資料はそれぞれの都市について、広域の都市計画図に都市の範囲が示されており、そこに市場を含む主要な都市施設の配置が記載されたものである。インドシナの屋根付き市場は鉄造もしくは組石造の壁に木造の小屋組を組み合わせたものから、鉄筋コンクリート造のものへと建て替えられるという流れがあるが、この市場の架構の変化を伴う建て替えの時期と都市の拡張が同時期に検討されていることがある。本資料はバタンバンとカンポットにおける都市拡張の時期と市場の配置を確認できる点で、本研究にとって重要な資料である。詳しくは研究の成果の欄に記す。また、アーカイブズ所蔵の写真資料としてプノンペン中央市場、バタンバン市場などを映した当時の状況が分かるものが確認された。



図2. カンボジア国立公文書館

- ・ ラオス国立図書館 (The National Library of Laos, Corner Setthathirath and Phangkham Road, Xiang Ngneune Village, Chanthabouly District, Vientiane)

国立公文書館が存在しないラオスは、資料調査を行う難易度は高く、国立図書館においても資料の保管・整理状況は良いとは言えない状況である。ラオス国立図書館にも目立った資料は確認できなかったものの、仏領期の雑誌資料などを保管した資料室を確認できたことは収穫であった。

### 【現地調査の経過】

旧仏領インドシナ各地の屋根付き市場の現況および都市の中での配置を確認した。実際に訪れた市場は下記のとおりである。

ベトナム：タンディン市場（ホーチミンシティ），トゥーダウモト市場（トゥーダウモト），ビantai市場（ホーチミンシティ），ドンバ市場（フエ）

カンボジア：プノンペン中央市場，バタンバン市場，カンポット市場，コンポンチャム市場

ラオス：ポーシー市場，ダーラー市場，パンルアン市場（すべてルアンパバーン）

### 3. 研究の成果

（注）必要なページ数をご使用ください。

前項に示したように、ベトナム、カンボジア、ラオスでの資料調査および現地調査を行った結果、屋根付き市場と都市計画の関係を読み取ることができる資料としてカンボジアの主要都市であるバタンバン（Battambang）とカンポット（Kampot）の二つの都市における都市の拡張計画についての文書および図面が見つかった<sup>注3)</sup>。この資料は1920年代に作成されており、図面には都市の拡張計画および諸都市施設の配置が記載されている。現存するバタンバンおよびカンポットの屋根付き市場は、ともに当時インドシナで活動していたフランスの建設会社であるS. I. D. E. C. (Société Indochinoise d'études et de constructions) によって鉄筋コンクリート造で建設されたもので、バタンバン市場は1930年代、カンポット市場は1920年代後半に建設された。これらの鉄筋コンクリート造の市場が建設される前は、鉄造や組積造の壁と木造の屋根架構をもつ市場が建っていたが、都市人口の増加および物品や食品の売買の需要増に伴って公設市場を大規模なものに更新したと考えられる。これらの資料から読み取ることができる都市拡張についての考え方は、メトロポールにおける同様の計画と、その手法の面で比較が可能になる点で重要なものである。

### 【バタンバンの資料について】

アーカイブズ資料によれば、1914年にバタンバンの市街にプーム・スメイ（Phum-Thmey）という村を加えることについて検討されている。この村にある既存の青空市場を管理し税を集めるために、まず鉄の屋根付き市場を建設することについて述べられている。この鉄の市場はフランスのEiffel社の後身であるルヴァロワ・ペレ社（Société de construction de Levallois-Perret）によるものであると考えられる。さらにこの鉄の市場のあと、1935年ごろに鉄筋コンクリート造の屋根付き市場が建設される。市場の位置は都市の拡張計画図においても指定されている。

図面には諸施設の配置が書かれている。中でも番号が振られているものとして、下記を確認した。これらの施設は都市に置かれる主要な施設として、他の都市拡張計画と比較可能なものであると考えられる。

1.Résidence, 2.Solo Khét, 3.Trésor, 4.Milice, 5.Tribunal Cambodian, 6.Prison, 7.Usine des Eaux & d'Electricité, 8.Postes & Télégraphes, 9.Travaux Publics, 10.Police, 11.Forêts, 12.Gourpe Scolaire, 13.Douane, 14.Véténaire, 15.Hôpital, 16. Ecole des filles, 17. Tribunal, 18.Enregistrement, 19.Cadastre, 20.Agriculture



図3. バタンバンの都市拡張計画図<sup>注1)</sup>

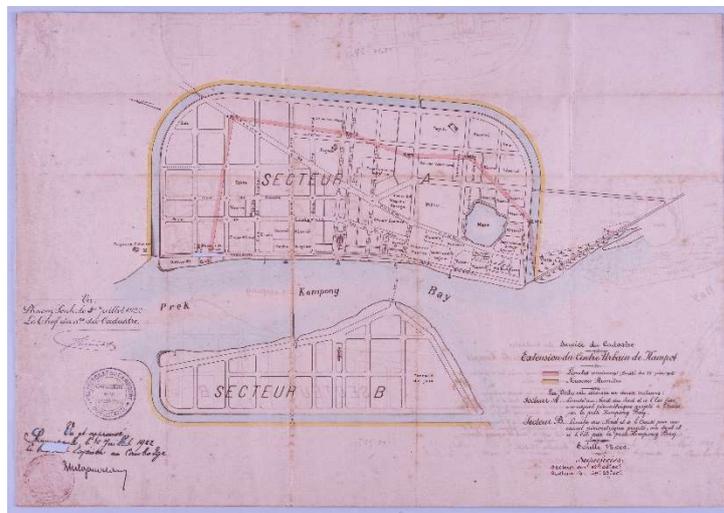


図4. カンポットの都市拡張計画図<sup>注2)</sup>

【カンポットの資料について】

カンポットの都市拡張は1922年に計画されている。図面には既存の市街地の範囲の外側に拡張後の範囲が示されている。バタンバンの計画図と異なり、諸施設の配置が書き込まれているものの、番号は振られていない。市場の配置を見てみると、Prek Kompong Bayとして示されている河川を挟んで両岸に配置されているが、現存する鉄筋コンクリート造の市場が建っているものが東岸の市場と一致している。対岸側には現在市場は存在していない。この計画によって市場の配置が決められ、後に建設されたが取り壊されたか、計画された2つの敷地のうち1つのみに建設されたのかなどの詳細な経緯は不明である。資料には1921年にインドシナ建築都市計画局の局長に任命された都市計画課・建築家のエブラール (Ernest Hebrard) がカンポットの都市拡張計画を確認しているということも記載されていた。

両資料において、都市の拡張計画において屋根付き市場は市街地の中心部に配置されていることから、植民地の都市計画においても重要な施設であったことがうかがえる。また計画図に記されている他の諸施設と合わせて、都市における屋根付き市場の配置類型が見出されることによって、メトロポールとの比較がより充実したものになるだろう。

#### 4. 今後の課題

(注) 必要なページ数をご使用ください。

今回はアーカイブズにおいて入手することができたカンボジアの都市であるバタンバンとカンポットについてのみ成果が得られたが、これらの都市拡張計画にもとづきながら、インドシナの他の主要都市であり、既に都市史としての研究も充実しているプノンペン、サイゴン、ハノイ等と比較することにより、インドシナにおける都市拡張と諸施設の配置計画、および屋根付き市場の配置計画についてより詳細な事柄が明らかになるであろう。さらにはメトロポールにおける同様な都市拡張計画との比較も可能であろう。

注1) National Archives of Cambodia, PC1/3, 1939/2, Plan - Situation des Services a Battambang.

注2) National Archives of Cambodia, PC1/3, 14733/1, Plan du centre urbain de Kampot.